

平成29年度 姉妹校等留学プログラム

海外友好校・姉妹校との交換留学プログラム

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

横浜翠陵中学・高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国／都市：中国／上海

外国の高校：上海市第三女子中

(3) 期間

平成30年3月13日～平成30年3月27日（15日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

○海外友好校・姉妹校との人的交流(派遣・受入ともに年間各1回)を通じて、その関係をより深いものにする。

○生徒に交換留学の派遣と受入の機会を与え、異文化理解とともにグローバルな視点を持つためのきっかけづくりとする。

(5) 活動内容

○友好校への交換留学生派遣

○友好校からの交換留学生受入

○友好校の記念行事への出席

(6) 実績・成果

○派遣高校生 HJさん

・「上海交換留学を終えて」

〈動機〉

私が今回この留学に参加しようと思った理由は、二つあります。

一つ目は、小中学校で学んだ英語がどれほど自分に身についているのかを確かめたいと思ったからです。アルファベットを書くことから始めたのに、今では長文を読むことや、難しい英構文を用いて文章を作ることさえできるようになりました。ですが、いざ社会に出て英語を使うとなると最も大事になることは話し、そして自分の意思を発信することです。その力が自分には現時点でどれくらいあるのかを確かめたいと思いました。

二つ目の理由は、多くの文化に触れたいと思ったからです。互いの文化を知り、国同士の距離が近くなることで、大きな問題やプロジェクトに直面した時、多角度からの視点や意見を多く用いた、最善の解決策を生み出すことができるようになると思います。また、多種多様な文化に触れ、その中で差異や共通点を見つけたり、模倣したりすることはとても貴重な経験になるに違いないと思ったからです。

《ホストファミリーとの生活》

コミュニケーションがとれなかったらどうしようという不安や、未知な世界での生活への恐怖心から、ファミリーと会うまで緊張がちがちでした。ですがシスターからの第一声で、私はそんなに英語が得意ではないの。と冗談交じりに言われとてもリラックスすることができました。彼女のその言葉にとても感謝しています。

ファミリーは祖母との四人暮らしで、豪華な夕飯と共にとても暖かく私を迎えてくれました。到着した日の夜は、シスターが長年習っているという、竹笛とバイオリンを披露してくれました。勉強のみならずいろんな趣味を持っていて、素敵だなと感じました。

平日はシスターと家から徒歩五分ほどの近い位置にある学校に行きました。その間も、シスターは私の質問などに丁寧に答えてくれました。登校中に最も驚いたことは、朝の通勤時間の交通量が日本とは比べ物にならないくらい多かったことです。かなり幅のある道路もその時間帯は車と電動バイクで埋め尽くされていました。だから、道路を渡る際は左右を注意深く見渡し、素早くわたる必要がありました。

授業に参加して感じたことは、生徒がみんな真面目であること。授業が始まると空気が変わり教師の話に全員集中します。当たり前のことですが、どの授業でもそれをしていて、感動しました。ノートを必死にとるよりも、重要なことは教科書に書いてあり、教師の口頭での説明で、内容を理解するという形で授業が進められていることが多かった気がします。また、生徒が発言をする機会が多く、大量の宿題がある事から、ただ覚えるだけの勉強ではないということが伺えました。

クラスのみんながやさしく英語で話しかけてくれて、クラスにいる時間もとても楽しく過ごすことができました。週末には、シスターの親友と一緒に夕飯を食べに行ったり、ゲームをしてふざけたり、上海で流行しているものを教えてもらったり、日本のことについても紹介しました。特に日本のアイドルや俳優について詳しい人が多くて、その話題で盛り上がりました。本当にフレンドリーで明るくて一緒に過ごした2週間が充実していたのは間違いなく彼女たちのおかげです。

学校から帰るとすぐおいしい夕飯の準備がされました。シスターの祖母はとても料理の腕が良く、たくさん連れて行ってもらったどこのレストランよりも美味しかったです。特に美味しかったのは紅焼肉という豚の角煮。ご飯との相性抜群でシスターも好物のひとつらしい。次に上海に行くときは、中国語を勉強して祖母からその作り方を教えてもらいたいと思いました。

夕飯の時間には家族全員が食卓にそろうので、絶品の料理を味わいながらその日の出来事や、互いの国の文化について話したりしました。ファミリーは日本の話をするととても興味をもって聞いてくれたのがうれしかったです。私は話すことが大好きなので、だれかと話している時間が一番、時間があっという間に過ぎると感じました。

出国日、ホストファミリーに感謝の気持ちを述べ、別れを告げると彼女の母が涙していることに、自分も感極まりました。その涙が、わずか2週間の滞在にも関わらず、どれだけ意味のあるものであったかを再確認させてくれるようでした。

《留学を終えて》

私は今回このように上海に行く機会を与えてくださった方全員に感謝の気持ちを伝えたいです。TV越しだけでは絶対に知ることができない上海の魅力を多く感じる事ができました。人の温かさ、食のおいしさ、普段の暮らし、など本当に自分で体験することの大切さをも知れました。また、英語で話すことの楽しさや苦勞、次のステージに向けての課題などが明確になり、これからの勉強へのとても良いモチベーションになりました。今回得た貴重な経験をここで終わりにせず、今後の活動や私の思想を豊かにするための糧としていきたいです。

○派遣高校生 MYさん

・「上海交換留学」

2018年3月13日から27日までの2週間、中国、上海市にある上海第三女子中学にホームステイで交換留学をしました。そこでの体験をいくつかの話題に分けて紹介します。

《上海の驚いた文化、街の人々》

まずは生活の文化について。駅ではテロに遭遇した時の逃げ方などのポスターや荷物検査があって常に警戒されていると知りました。上海の道路には大量の電気で動くバイクが走っていました。歩道には、QRコードをかざして動くレンタサイクルがあらゆる場所に置いてあります。大気汚染の改善は急速にされているのだとわかりました。バスはあまり快適ではなかったです。驚いたのは、二人掛けの椅子で、奥の人が降りるとき通路側の人はよけたり一度立ち上がったたりしないことです。完全に見知らぬ人同士が密着しているタイミングがありますが、誰も気にしていないようです。公共交通機関を利用して共通に驚いたことがあります。それは知らない人同士が、頻繁に会話していることです。「次の駅で降りるか」など聞かなくともわかることを尋ねたり、「さっきの人なんか変だったね」などどうでもいいことを談笑したりしていました。私も話しかけられて少し驚きました。夜は大音量の音楽でダンスをしている人がいます。中国の色々なジャンルの音楽に合わせて男女が楽しそうに踊っていました。

電子マネーが当たり前に使われていました。あちこちにQRコードが貼ってあります。学生も携帯で会計を済ませていて、新しい物への適応が早いと思いました。

食事の文化について。来客があるなしに関わらず、たくさんの量の食事をとります。また、上海では、果物を食べる機会が多くあるようです。スーパーにいても日本では考えられない量の果物が、しかも安く売られていて羨ましく感じました。生のフルーツだけでなくドライフルーツも種類が豊富で、どのスーパーに行っても壁一面ドライフルーツが売ってあるスペースがありました。朝ご飯は、パンやおかゆや味が薄めの麺など、日本とそう変りないかと思います。でも、パンは私が食べたものでは、すべて揚げてありました。特に美味しかった朝ご飯は、胡麻団子です。伝統的に上海で食べられている朝ご飯だそうです。私の姉が香港で買った胡麻団子を食べたことがありましたが、形や味が全く違って地域によって違うのだと気づきました。夜ご飯は一度も食べることが出来ませんでした。食べ残した方がよいという文化とわかっていても申し訳なかったです。

《上海第三女子中学》

女子高で、制服は日本と同じようなプレザーとスカートが夏服で、冬服はプレザーとスウェットのズボンですが、イベント以外の日は好きな服を着て登校しているようです。私の普段使う制服よりカジュアルで動きやすく羨ましかったです。40分授業で、パソコンを使い音楽を作る授業やプログラミングの授業、好きな授業を選んで受ける授業(たとえば英語劇の授業、ものづくりの授業など)など、見たことのないものが多くありました。天気の良い日の朝は体操やランニングをします。日本のラジオ体操と似ています。授業と授業の合間に目の体操をすることもあります。職員室はたくさんの小さい部屋を

少人数ずつ使っていました。学校での勉強時間は合計で9時間。印象に残ったのは、国語の授業です。全部中国語でほとんど理解はできなかったのですが、たぶんディベートやコミュニケーションの方法のようなものを学んでいました。特色の授業は演劇の授業だそうです。例えば、私の参加した授業では、ポエムを元に音楽と動きをつける劇、先生がお題に沿ったジェスチャーを瞬間的にすること、清王朝の人々や現代の人々になりきって比較することなどをしていました。想像力がないと難しそうでした。私もクラスメイトの人と、「清王朝の戦争」を再現しました。一番楽しい授業でした。クラスの人も全力で授業に参加していて、日本との違いを感じました。

クラスメイトのみなさんとは休みの日に観光に行ったり、学校では中国語を習ったりしました。伝統的なお菓子を作ってきてくださった人もいました。豫園に行ったときは、豫園の成り立ちなどを説明してくださり感謝でいっぱいです。クラスが違う人でも授業で会うと、積極的に話しかけてくださって嬉しかったです。また、日本について関心を持っている人がとてもいて日本でよく知られている歌手やドラマなど知っているといっていました。アニメが好きで日本語が話せるという人もいました。他にも日本の弁当がとても面白いという人もいました。弁当が海外で注目されていると英語の授業で習っていましたが、本当だったとわかって驚きました。最終日の前日にはFarewell partyを開いてくださいました。中国の伝統的な踊りを見たり、英語でゲームをしている人々とコミュニケーションをしたりしてとても楽しかったです。

《ホストファミリーとの交流》

ホストシスター、その両親、姉、祖父母の6人家族にホームステイさせていただきました。部屋のドアには赤地に金色で福と書かれた布が貼ってありました。家が出る食事は中華料理がほとんどです。食べ方のわからない中華料理などを一から教えてくださいました。ホームステイ中に私がとても好きになった若者の間で有名な飲み物があって、注文をお願いして何度も買いました。

書道教室に三回連れて行ってくださいました。その教室の先生から中国式の筆の持ち方や、漢字の成り立ち、書道で大事にされている中国の言葉など習いました。三回目に行ったときホストシスターと、お互いに向けて毛筆で書いたメッセージを交換しました。家の中ではほぼ毎日ホストシスターと一緒に勉強をしていました。その時も常に何か食べ物を食べながらやっていて苦じゃなかったです。流行っているテレビ番組も見ました。家族はみんなで部屋の中で歌を歌ったり、今日自分のやったことを報告したり一緒に携帯でゲームをしたりと、とても仲が良かったです。

《まとめ》

私は初めて外国に行きましたが、自分のこれまで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないのだとわかりました。また、これまで人と話す事は苦手で、日本語ですらうまく話す事ができなかったのですが、今回全く知らない、言葉も違う人とたくさん関わることでかなり克服できました。そしてより英語力とコミュニケーションの能力を向上させる必要があるなとわかりました。